

< 県議会（公明党） >

日 時：令和2年11月12日（木）14時30分～15時15分

会 場：熊本県議会棟 全員協議会室

参加者：3名

【城下広作議員】

我が会は3名しかおりませんが、このような形で、事前に意見を聴取していただくという機会を与えていただきまして、御礼申し上げます。

また、コンパクトにまとめた説明、改めて、7月の豪雨から今日まで、どういう形の部分で、県が進めてきたか、またいろいろ状況等をまとめていただいたことに対して、大変わかりやすかったと思います。

それと、冒頭に知事からもありましたように、私たちも例えばこの日を迎えるにあたって、いろいろといわゆるメディアで、何かしら早く何か事が決まってるような形の情報を見ますと、非常に、あれ、ちょっとそんなのは決まっているのかなとか、日程の問題とか、内容の問題とか、本来はこういうことは話を聞いてから我々が情報を知る、というのが普通なんです。こちらの方から情報を出したとかそういうことはないと思うんですけど、非常に、今後情報管理をしっかりしておかないと、違う形で誤解を招く。結果的には多くの県民の方がそういう形で、「ああ、そうなるのかな」というふうに思われると、我々が今から論議する者として、ある意味、逆に違う問題が生じることがありますので、その辺はしっかり情報管理の方を大事にしとかなきゃいけない。冒頭でちょっと、これはぜひ意見として述べておきたいなというふうに思います。

それと率直に、知事が今回の豪雨災害以降、我々も私も9月の議会で代表質問をさせていただきました。この洪水によって大変尊い人命がなくなり、大変な財産が失われる。そして莫大な被害を起こして、それに対して、相当なお金と人のエネルギー、いろんな形があって、復旧費もかかるんですけども、それをいかに最小化しながら、どうやって乗り越えるかというふうに、知事を先頭に、特に知事が一生懸命考えられて、そして今後、創造的復興をどうすればいいのか。そのことを決断するにあたって、いろいろな方の意見も聞かなきゃいけない。県だけ、知事の個人だけの意見ではいけないという表れが、いろいろ流域の住民や団体、いろんなところに意見聴取をされてるってのはこれは評価をしたいと思います。

ちょうどそのことは、12年前に知事が当時決断されたときと重なって、あのときも幅広いやっぱり民意というのは何なのか、ということを大事にされて、そして決断されたというのをちょうど思い出します。あの時はあの時で、最大限の民意を吸い上げられて、知事が考えられた決断だなと、我々は当然議会でも理解をしましたし、多くの、当然、議会も全体がそういうふうに理解をしたし、おそらく県民の方もそのことに対して理解された。あれはあれで、大変大事なプロセスを経てなされた決断だったと。あえて、今回も似たような時期が来ましたから、そのことは、ちょうど12年前のことにちょっと触れておきたいなと思いました。

それで、私達が球磨川も、いわゆる今回のこの被害に対して、どこまでの部分の安全

度を求めていくか、ということで、我々も一緒に今悩んでおります。

例えば、国交省は、今ハザードマップで、例えば1,000年に1度のハザードマップを作りなさい。1,000年に一度の規模ってのはほとんどない規模で、そこまで絶対万全にするということを考えるのは、なかなか現実的に難しい。

ということで、逆に言えば、どこまで我々が治水を求めていくのかということで、結論を出していくのだろうと思うんですけども、そういう意味では、今回から、私もちょうど代表質問のときに、知事の答弁から流域治水という話も答弁の中で入れていただきました。この説明資料にもありました。全体の部分で治水を考えるという考え方は、国交省も全国の河川で大変大きな氾濫がある中で、こういうことを推奨していこうという流れが、このことは非常に、我々は大事なことだなと思っています。

この流域治水の考え方を基にした、球磨川の治水対策、このことに対して、しっかり取り組んでいただきたい。そして、結論を導き出す形でやっていただきたいというのが、率直な考えでございます。

そこで、例えば、この流域治水の中で氾濫域での対策というのが4ページにあるんです。私も代表と質問の時に言ったのが、いわゆる河川ですから、場所によっては、安全な地帯、ある意味では一番低いところでちょっとした水害でも浸かるといふような地域もあり。そういうところを基準に考えれば、もうとんでもなく大きく予防してかなきゃいけない。まあそういうところは、いろいろ意見とか織り交ぜながら考えないと、全て完璧にしようとする、相当ハードルを上げなきゃいけないってありますので、この辺の折り合いというのは全体バランスの部分で、しっかり今後考えていく必要があるのかなと私は感じております。

それと、いろんな団体、住民の方の意見を聞かれたときに、幅広い意見があったと認識をしています。ここの意見の民意が、どの部分が一番大事な民意なのかというようなことが悩ましい部分であって、極端に言えば右から左の意見も全て民意ですから大事なことですけど、それを叶えるというのはなかなか難しい。そこの最大公約数といいますか、そこまでは守らなきゃいけないという、その民意の集約、そしてそれを治水に結論づけるということもですね、どのように考えていかれるのかなあ、というのは非常に悩ましいことだと思うんですけども、そこはしっかり、たくさんの意見を聞かれて、本当に考えていただいて、その意見が出たときに、私達は知事の判断を、どういう形で我々も今度は、理解をし、そこで合致するのがあれば、推進をするんですけど、まずは提案をしていただく内容を、我々はしっかりと吟味しながら、そして我々の考えをその時に照らし合わせて、納得いくような形であればその時は賛同するし、若干違う意見の場合はどうするかということ、その段階で考えていく必要があるのかなと、今のところそういうふうにあります。

ただ、今こういう形で説明された流域治水、これはしっかり、その考えを大事にさせていただくことと、それと一部で反対される方が誤解を持たれている、特に市房ダムの部分に関しては、細かく丁寧にありました。我々もここのところはよく理解してもらわないと、結局放流によって洪水が生じたということが事実だったら認めなきゃいけないけど、事実じゃないのであれば、これは丁寧にしっかり時間をかけて、そして1人でもそういう誤解を持ってる方がいたら、丁寧に誤解を解いていくってのは、県として大事

な努力義務ではないかなと思います。

私も当日は、県に2回電話しました。8時半の段階、「放流するんですか」と。「まだ、しません。」そして次は9時半です。そのくらいまで時間をおいて電話をした。そして、「見送ります。」ということで、そしていよいよ放流するような段階になったときに、「上流部の降水が少し弱まりました。放流しなくていいです。」と。

私はリアルタイムで当日電話で県の方に確認をさせていただいたものだから、それはなかったというのはわかるんですけど、それが今でも、まだ、「放流があった」「見ていたんだ」という意見が仮にあったとするのであれば、それはやっぱり、皆様方がしっかりと説明責任を果たして、誤解を解くということは大事じゃないか。

全てはいろんなデータが議会でも示されましたけど、このあいだ全員協議会でも示されましたけど、科学的根拠というのは、いろんな学者によっては若干のいろいろ考え方が変わってくるんでしょうけれども、少なくとも今で言えば、極端におかしくないという数字は、科学的根拠に基づいた数字だと思いますし、信じていきたいと思いますので、そういう数字が出たら、できるだけわかりやすいように、県民や関係者の皆様に努力して説明をして、この事は時間をかけてでもしっかりやっていく、そういうことが最終的には理解を得ることになるんじゃないかなと思いますので、その辺のことをですね、今後進めるに当たっては、心がけていただきたいというのが、私の意見です。

やっぱり人命の件は、他の二人からも御指摘があると思うんですけども、やはり、早く避難をしていくと。早く危険を察知し、行動をとるということが、まずは人命を尊重することに繋がるかなと思います。そういうソフト的な対応策をしっかりやるってことは、併せて考えていただきたいと思います。

#### 【前田憲秀議員】

私からも、まずは、城下議員と一緒にですけども、こういう場を開催していただき、ありがとうございます。また詳しく流域治水のイメージも含めて御説明をいただきました。

私どもは常日頃から災害も含めて、現場に行って、深くどういう状況であるか、直接自分の目で見るというのを信条としております。今回も人吉市内はもちろんのこと、相良村、球磨村、そして八代市の坂本町、芦北、津奈木、全て人命が失われたところに行かせていただきましたし、被害のひどいところも調査をさせていただきました。

全体的に感じたことは、やはり、人吉市内の被害の状況と、球磨村の被害の状況、坂本町の被害の状況、見た目でも違います。ということは、復旧の仕方と言いますか、復興の仕方、スピード、やり方も若干違ってくるんじゃないかなあ、というのを感じております。そこは知事をはじめ執行部の皆さん方は現地に赴いて、しっかり現地で被害に遭われた方の御意見を聞いていただいていると思いますので、そこはもうしっかりそれを、現場の声をまず最優先として、これからも積み上げていただきたいなと思ってます。

先週、私は水上村に被害があるということで、お邪魔をしました。もう市房ダムよりもまだ上の、県が管理してるよ湯山川という砂防堰堤、大きな砂防堰堤があるんですけど、そこにもお邪魔をして、亀裂があるんじゃないだろうとか、もっと上流、本当に球磨川のいわゆる源がある、そこまでは行きませんでしたけども、そういうところだっ

たんですが、相当やっぱり「7月の豪雨時はすごい流量で怖かったです。」という話がありました。

そんな中でも砂防堰堤を見てきましたけど、私の身長ぐらいある大きな岩でそこが塞がれて、ただ、これ以上またひどい流量になったらどうなるんだろうという現場を見て感じたところもございました。そういったところも含めてですね、しっかり現場の意見を、今も聞いていただいていると思いますが、聞いていただきたい。

そして私どもが感じたのは、人吉市で被害に遭ったある集落があります。もうほとんど全滅だったんですけど、その住人の方々は、被災当初は集団移転ということを言われてました。ただ、今お聞きすると、その思いは大分薄れて、やっぱり元いたところに住みたいというお話も聞いてます。

そういうお話、皆さん御存知かと思うんですけども、熊本地震の時もそうでした。西原村で集団移転の話がありましたけど、やはり、ずっと代々生まれ育ったところというところで、やっぱり時間の経過とともにですね、被害に遭われた方々の思いもやっぱり変わってくるかと思えます。そういうことも、しっかり被災者の意に沿って、いろんな対策を講じていただきたいなあ、という思いがあります。

私から最後に、城下議員も言いましたが、命を守る点をしっかり示して欲しいということです。

今回、深夜から明け方にかけての集中豪雨ということで、人吉市の首長はもう5時ぐらいから、防災無線で連呼連呼、避難をしてくださいという呼びかけをされてたと聞いておりますけども、なかなかやはり、その前の日の雨量からすれば、これほどの雨量になるとは想像できなかったというお話も聞きました。

ここ昨今、そういう思いもしなかった被害があります。数年前に阿蘇で水害があった時も、予防的避難ということで、お天道様が出てる時、晴れてる時、安全な時にやはり避難をする。こういう仕組みもですね、もう一度考えないと、水が出てきた、危なそうな、また相良村にお邪魔した時も、もう足元に水が迫ってきて、命からがら逃げ出したというお話も聞きました。そういったことも含めてですね、予防的避難、今まで言われておりますけども、しっかりこのこともお示しいただけるような復旧プランにしていただければなと思っております。

しっかりこれからも、私ども会派で議論をして、結論といいますか、意見もこれから出していきたいと思っております。

#### 【本田雄三議員】

どうもありがとうございます。丁寧な資料で非常にわかりやすく、参考になっております。

私も代表、幹事長ともに同じ意見でございますけれども、特に思っていたのは、今回の雨というのが集水域の山間部だけに降って、時間差で下流の方に来たということではなくて、一定箇所に長時間の雨量ということで、水位の上がり方が早かったというのをお聞きいたしました。そうなった時に、上からの流量というより、各支流における様々な対策も必要ではなかろうかなと感じたところでございます。

本流も確かに流れが悪くなっているところもありましたけれど、年配の方々からお聴き

すると、子どもの頃はもっと川が深かったと。そういうようなお声が相当数ございまして、今はもう、言わば川底が見えてるということをおっしゃっておられる中に、支流としての役割が果たしてこれで保っているのかなというようなところの、ちょっと疑問もあったところでもございました。ダムだけではなくそういう支流の方の対策も、やはり含めていただいた対策が必要ではなかろうかなと考えているところでございます。

人の気持ちはすぐ変わるといいますか、先ほど幹事長が言いました通り、その時は、被災地は、もうとんでもない、ここには住めないとおっしゃっておられましたが、天気が良くなり、乾いていって片付けをしたらやっぱりここがいいということでもた変わって参ります。知事が、多くの方から意見を聞いておられる、そういう行動はすばらしいと思いますけれども、そういう民意の変化というのが根底にはあるのかなと思いますので、なかなか判断が難しいと思いますけれども、賢明な御判断をしていただきながら、また我々も検討させていただきたいと思っております。今日はありがとうございました。

#### 【城下広作議員】

いろいろお二人の意見もあったと思いますけど、いずれにしても、いつかの段階で、どういう治水対策をやるという結論が出て、それに向かって進むんですけど、それにすぐに取りかかるとか、できるまで時間がまだあると。だけどその間、自然災害はいつどうやって襲ってくるかわからない。ですから、できることは、現段階でできること、例えば、本当に非常に堆積してる所があれば、これは河川掘削をやっていく。これはもう別の次元として、やるべきことをやっていくということは、しっかりやっていかないと、完全にフルセットでやるという形は時間もかかりますし、また、予算もかかっていっぺんにできませんから。着実にやることをやりながら、治水対策を考えていく。それも一つの流域治水の考え方だと思います。

セットでやらないとできないということではなく、着実に今やれること、そして、またそのことがフル整備でできない場合には、我々人間が知恵を出して、まず命を守るという形を実行していく。段階的に、いわゆる自然と共存していく。私たちが、逆に言えば、命を大事に財産を守っていくというような考え方も織り交ぜながらいかないといけないのかなと思います。

そして、特にやっぱり豊かな自然。私も質問で引用させていただいたんですけども、球磨川の人達が「球磨川は悪くない。」と、本当に球磨川を大事にしながら、球磨川で恵みを受取り、今日まで生きてきたその歴史という、地元の方でしか語れないようなことも耳に残っております。そういうことを全部包み込んだ形での流域治水の答えを、ぜひ考えていただきたい。私たちはそれに納得したら、しっかりと、知事をまた支えていくというような形に繋がってくると思います。

大変難しく、幅のある意見もたくさん出て悩ましいと思いますけども、今後の、いろいろな判断、また協議に期待したいと思います。

今日はこういうことで、我々の会派の意見としてまとめさせていただきたいと思っております。よろしくお願い申し上げます。

(以 上)